



平成30年度埼玉県消費生活有功者表彰
消費者保護等への長年の功績を称え、
埼玉県から表彰

生協役員を代表して3名が受賞し、埼玉県知事公館でおこなわれた表彰式で表彰されました。

受賞者を代表して、コープデリ生活協同組合連合会の佐藤秀明氏(写真:下段右から2人目)が謝辞を述べました。



日本協同組合連携機構 主任研究員 文珠 正也さん 横溝 大介さん

埼玉県消費生活協同組合役員等研修事業
2018年度 役職員研修会
持続可能な社会に向けた協同組合の
連携などについて学習

浦和コミュニティセンターにて、「SDGsの視点から協同組合の役割を学ぶ」をテーマに研修会を開催、6生協31人が参加しました。協同組合同士がお互いを知り、違いを知りながら、地域の中で「あいのり」して連携して取り組んでいくことが大切だとお話しいただきました。



体験稲刈り&田んぼの生きもの調査
雨の中、多種多様な生きものに歓声

JA全農さいたまと埼玉県生協連共催、杉戸町とJA埼玉みずほ後援で杉戸町農村センター及び隣接の草地にて開催され、生協組合員等22家族69人が参加。雨のため稲刈りは中止しましたが、草地でたくさんの生きものを捕まえ、楽しいひと時を過ごしました。



▲市民会館おおみや(さいたま市) ▲県内団体交流会

2018さよなら原発埼玉県民集会
再生可能エネルギーへの転換に向けて
学習・交流しました

「2018さよなら原発埼玉県民集会実行委員会」主催で開催、約800人が参加しました。午前中は18団体26人の参加で、県内団体交流会を開催、午後は「地域分散ネットワーク型の経済へ 原発を続けると日本経済は沈没する」をテーマに慶応大学名誉教授 金子勝氏に講演いただきました。

写真 ニュース

発行:埼玉県生活協同組合連合会
2019・冬号 No.69

埼玉県マスコット「コバトン」



▲来賓あいさつ 上田清司知事 ▲講演する湯浅 誠さん ▲食分科会「おいしい埼玉!畜産物をめぐる国内外の現状」

第54回埼玉県消費者大会
「誰ひとり取り残さない」を基調に、学習と交流を深めました

埼玉会館にて「自ら考え行動する消費者になろう～誰ひとり取り残さない平和な社会を目指して～」をスローガンに、第54回埼玉県消費者大会を開催、全体会に700人、分科会に397人が参加しました。開会に先立ち、スライドにより24の実行委員会参加団体の活動を紹介しました。来賓の上田清司埼玉県知事あいさつ、基調報告の提案、記念講演は社会活動家の湯浅誠さんに「子どもの貧困の現状と、私たちが考えなければいけないこと」のテーマでお話しいただき、会場の共感を呼びました。午後は4つの分科会で、学習と交流を深めました。



▲今年初めて、生協が連携・協力する「フードバンク埼玉」も出展



2018彩の国
食と農林業ドリームフェスタ
生協の商品や取り組みを紹介

朝霞市民の森(朝霞市)で開催された祭典に、コープみらい、パルシステム埼玉、生活クラブ生協、医療生協さいたまの4生協と埼玉県生協連が出展し、コープ商品の試食や脳トレ・体力チェック、消費者被害防止クイズなどを通して、生協を知っていただく機会となりました。

会員生協の取り組み

広がる県内生協の多彩な活動

生活協同組合コープみらい

「コープみらいフェスタ in さいたまスーパーアリーナ」を開催しました

10月14日(日)、さいたまスーパーアリーナで「医療生協さいたま健康フェスタ」、「埼玉物産観光フェア」、「国際フェア2018」と同時開催し、約4万5千人の組合員・県民の皆さんをはじめ、上田清司埼玉県知事にも来場いただきました。コープみらいは、取引先約70社による試食・販売、食育体験企画、事業や組合員の取り組みや、地域の団体と連携したくらしの取り組みの紹介、ステージ発表などをお楽しみいただきました。

▶コープみらいの組合員が地域での多彩な取り組みをお知らせしました



▲5つのテーマゾーンに、180を超える団体が出展し、多彩な取り組みがおこなわれました



▲30の組合を代表して、鈴木俊彦事務次官から表彰状を受け取る田原けい子理事長

生活協同組合パルシステム埼玉

厚生労働大臣表彰を受賞しました

パルシステム埼玉は、10月30日(火)、消費生活協同組合法施行70周年を記念した厚生労働大臣表彰を受賞しました。

今回の受賞は、パルシステム埼玉の「市民活動支援金」「フードバンク活動」など、社会的責任を果たす活動や「いきいきネットワーク」の地域社会発展に資する活動、「地域見守り協定」に代表する地域との調和の取り組みが高く評価されました。

生活クラブ生活協同組合

生活クラブさんとめどんぐり村で秋まつりを開催しました

11月17日(土)、第3回さんとめどんぐり村(所沢市下富)の秋まつり「森で遊ぼう」を開催。生活クラブ関連の出店をはじめ、農福連携活動でつながった障害者就業支援を行う団体や、埼玉県環境部みどり自然課の出店もあり、600名以上の参加者で賑わいました。日本農業遺産となった「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が残る三富(さんとめ)地域で、薪割り、竹細工作り、ピザ作り、ソーラークッカー等の体験や、篠笛、リコーダー、サクソ、ギター演奏などもあり、大成功のお祭りとなりました。



医療生協さいたま生活協同組合

ケニア協同組合同盟の視察団が来訪しました



11月6日(火)、協同組合の調査を目的に来日中のケニア協同組合同盟の視察団が、来訪しました。事業活動の説明を受け、埼玉協同病院の外来受付、老人保健施設みぬまのリハビリスペースや浴室を見学しました。設備の充実ぶりに驚いた様子でした。視察団から「素晴らしい活動をしているが、自治体から資金援助があるのか」などの質問がありました。

視察が、ケニアにおける医療・福祉事業の発展に活かされるよう願っています。

埼玉県労働者共済生活協同組合

防災・減災と「賀川豊彦」について学びました

11月11日(日)~12日(月)に、「労済運動体験学習」を神戸にて実施しました。「人と未来防災センター」では、阪神・淡路大震災の被害の甚大さと東日本大震災の教訓等を振り返りながら、防災・減災の重要性を学習しました。次に協同組合運動の草分け的存在である賀川豊彦氏にまつわる「賀川豊彦記念館」を訪れ、西参事による講演をお聞きしました。さらに北淡震災記念公園の米山代表取締役より、阪神・淡路大震災の被災体験をお話いただき、野島断層保存館を見学しました。参加者からは「減災は人の力でできる。無保障の組合員を出さないようにしようと思う」との感想がありました。



▲阪神・淡路大震災の凄まじさを伝える野島断層保存館(北淡震災記念公園・兵庫県淡路市)

さいたま住宅生活協同組合

県内6ブロックで組合員意見交換会を実施しました

県内を6ブロックに分けて、組合員、総代と意見交換するという住宅生協初めての取り組みに挑戦しています。住宅生協の事業の現状を詳しく説明し、経営が安定していること、事業も順調に進んでいることを報告し、組合員から意見、要望を伺う取り組みです。この取り組みで、組合員の信頼感が一層深まっていると実感しています。さらに、この機会を継続し、多くの組合員からさまざまな意見、要望をうかがいながら、事業前進を目指します。



大東文化学園生活協同組合

秋の食生活相談会を開催しました

11月22日(木)、生協学生委員会の呼びかけで開催し、27名の相談がありました。

乱れがちな食生活や、生活習慣の振り返りと改善を目的に開催したもので、運動不足で体脂肪率が高めの学生が多く、体重が1年で10キロも増えた学生もいました。貧血気味な方からの食事の相談もあり、鉄分の多い食品や、吸収をよくする食品などを説明しました。

真剣に聞いてくれる学生が多く、こういう機会があつてよかったという声をいただきました。今後も企画を継続し、広めていきます。

